

氏 名	奥田 益美
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	乙第331号
学位授与年月日	令和3年7月7日
審 査 委 員	主査 教授 齊藤 洋司
	副査 教授 森田 栄伸
	副査 准教授 河村 敏彦

論文審査の結果の要旨

患者満足度は医療の質のアウトカムの一つであり医療の質改善の重要な鍵である。米国では全国共通の患者満足度調査 Hospital Consumer Assessment of Healthcare Providers and Systems (HCAHPS) Survey の病院別の評価別割合がオープンデータで公開されている。先行研究では高評価データを使用した項目毎の分析で全体評価とコミュニケーションの強い関連や小規模病院での高評価等が報告されているが、どのような評価パターンのグループが患者満足度を構成するかに注目する患者満足度の構造への影響要因は報告されてこなかった。本研究では HCAHPS 調査結果を病院属性別に分析し患者満足度の構造への影響要因候補を探索した。対象病院は 2012 年 7 月から 1 年間の HCAHPS 調査のうち回収数 50 以上等の病院とし 3 件法の 9 項目（医師コミュニケーション、看護師コミュニケーション、スタッフ対応の速さ、疼痛管理、薬剤説明、清潔さ、静かさ、全体評価、他者推奨）を使用した。病院属性は病院規模の代用として回収数 50-99、100-299、300 以上で報告される回収数 3 群を使用し、比率の多重比較の結果 50-299 と 300 以上の 2 群に統合した。この他急性期医療中心の Acute Care Hospital (ACH)と地域病院 Critical Care Hospital (CAH)分類、心臓外科、一般外科、政府に医療データを提出するナーシングケア、脳卒中ケアの登録有無を使用し病院属性別に項目別評価割合の合計表を作成後、距離の分析(Ward 法でのクラスタ分析、対応分析、多次元尺度構成法)で項目をグループに分類した。統計ソフトは R version 3.1.0.を使用した。3711 病院(米国病院の 65%)が条件に該当し項目は次の 4 グループに分類された：常に高評価のコミュニケーショングループ、常に低評価の薬剤説明・スタッフ対応の速さ・静かさのグループ、病院属性で評価が変化した全体評価・他者推奨・疼痛管理のグループと清潔さのグループ。評価が変化した 2 グループは回収数 300 以上群、心臓/一般外科・ケア登録病院ではいずれも高評価に属したが、回収数 50-299 群、CAH、ケア非登録病院では全体評価・他者推奨・疼痛管理のグループは低評価だったのに対し、清潔さのグループは高評価に属した。病院属性のうち病院規模や急性期外科的治療提供、医療の質改善への積極性が患者満足度の構造への重要な影響要因であることがわかった。従来の分析手法で困難であった患者満足度に大きな影響を与える因子が距離の解析で明らかとなった。